

日本の小学校英語における授業内会話 -会話分析の観点から-

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚, 清高 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/21816

2021年1月20日

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員 (主査) 国際日本学部 専任教授

氏名 尾 関 直 子 ㊞

(副査) 国際日本学部 専任准教授

氏名 ブライアン・ルーゲン ㊞

(副査) 東北学院大学 文学部教育学科 教授

氏名 村 野 井 仁 ㊞

1 論文提出者 大塚 清高

2 論文題名

Classroom Conversation in Japanese Elementary School English Lessons: A Conversation Analytic Perspective

(日本語文題) 日本の小学校英語における授業内会話—会話分析の観点から—

3 論文の構成

Chapter 1

Introduction

Chapter 2

Literature Review

I. Historical Background of Elementary School English Education in Japan

II. Research on Second Language Acquisition

III. Research on SLA of Young Learners

IV. Conversation Analysis

V. CA Studies on Daily Conversation

- VI. CA in Institutional Settings
- VII. Studies on Classroom Conversation
- VIII. CA in SLA
- IX. Activities in Language Lessons
- X. CA Studies on English Education in Japanese Elementary Schools

Chapter 3

Study

- I. Purpose of the Study
- II. Research Questions
- III. Data Collection
- IV. Data Analysis
- V. Analytical Viewpoints

Chapter 4

Overall Structural Organization

- I. Introduction
- II. Overall Structural Organization
- III. Analysis of Overall Structural Organization
 - Opening the Lesson
 - Warming-Up
 - Reviewing
 - Introducing New Items
 - Using the Target Expressions
 - Closing the Lesson
 - Transition between Activities
 - Summary of the Analysis

Chapter 5

Turn-Taking Organization

- I. Introduction
- II. Turn-Taking Organization
- III. Analysis of Turn-Taking Organization

Activities and Turn-Taking Organization
Turn-Taking in Opening and Closing Greetings
Turn-Taking in Warming-Up
Turn-Taking in Reviewing
Turn-Taking in Introducing New Items
Turn-Taking in Using the Target Expressions
Summary of the Analysis

Chapter 6

Sequence Organization

I. Introduction

II. Sequence Organization

III. Analysis of Sequence Organization

Adjacency Pair

Sequence Organization in Opening and Closing Greetings

Sequence Organization in Warming-Up

Sequence Organization in Reviewing

Sequence Organization in Introducing New Items

Sequence Organization in Using the Target Expressions

Summary of the Analysis

Chapter 7

Repair Organization

I. Introduction

II. Repair Organization

III. Analysis of Repair Organization

Types of Repair

Repair Organization in Opening and Closing Greetings

Repair Organization in Warming-Up

Repair Organization in Reviewing1

Repair Organization in Introducing New Items

Repair Organization in Using the Target Expressions

Summary of the Analysis

Chapter 8

Discussion

I. Introduction

II. Summary of the Analyses

Concept of Activity

Opening the Lesson

Warming-Up

Reviewing

Introducing New Items

Using the Target Expressions

Closing the Lesson

III. Features of Classroom Conversation

Institutional Characteristics

Classroom and Language Lesson Context

Uneven Participation

Target of Repair and Epistemic Status

Collaborative Construction and Mutual Influence of Contexts

IV. Pedagogical Implications

Institutional Features as Pedagogical Device

Communicative Language Teaching

Classroom Context

Interactional Design

V. Limitations and Further Studies

Limitations of the Study

Directions for Further Studies

Chapter 9

Conclusion

I. Summary of the Study

II. Significance of the Study

References

4 論文の概要

本研究の目的は、日本の小学校で行われる英語の授業中の会話がどのように組織されているかを分析することである。そして、その分析結果に基づき、小学校の英語教育の質を向上するための方策に関して、教育的示唆を提示することにある。日本における小学校英語教育は規模が拡大

しつつある一方、教室での授業の実態を探ることが求められている。特に、より効果的な教育環境について考察するためには、教室の中で英語がどのように学ばれているのかを調査する必要がある。そのためには、教員と児童が授業中の活動において、どのようにコミュニケーションしているかを調査することが重要である。こうした考えに基づき、本研究では、小学校の英語の授業における教員と児童の間で行われる会話を研究手法として会話分析の方法を用いて調査している。会話分析による研究は、会話を通じた人間同士のやり取りを、会話の参加者がその目的を達成するためにどのように振る舞うかという観点から分析することを目指している。そのため、会話当事者の視点に立つことで、なぜ話者がある発話を特定のタイミングで行ったのかを、そのやり取りにおける話者の目的と関連付けて理解することが可能となる。

本論文は、9章から構成されている。以下に各章の概要を記す。

第一章は本論文の序論として、日本の小学校英語教育の現状と、その政策的および教育的な課題について述べている。本章は、児童と教員が教室内会話にどのように参加しているかを理解することが、小学校の英語コミュニケーション活動を改善する方法を考える上で、重要な第一歩になることを論じている。

第二章では、日本の小学校英語教育の歴史的な背景および現状を概観した上で、第二言語習得に関する理論的な研究をはじめ、日本国内や若年学習者による第二言語習得に関しての先行研究を論じている。後半では、本研究で用いる研究手法である会話分析の先行研究についても概観している。

第三章では、第二章までの議論を踏まえ、本研究の目的と研究方法について説明している。また、研究の目的を達成するための研究上の問いも提示している。研究方法については、データの収集および分析のプロセスを概説している。最後に、本研究で用いる分析の観点を要約している。

第四章から第七章では、教室内会話データの分析結果を提示している。第四章は全域的構造組織を扱う。全域的構造組織は、制度的場面における会話に特徴的な構造組織である。本研究では、小学校英語の授業の全域的構造組織に関して、授業内の活動をその参加者の行為や会話の題材に基づいて分類することによって、検討している。

第五章は順番交替の組織に焦点を当てている。順番交替の組織は、会話の参加者たちの間で発話の順番がどのように交替されるかを表す。本章では、第四章で分類した各活動の中で行われる会話を順番交替の組織の観点から分析している。

第六章では、連鎖組織を分析している。会話内では、発話順番が連なることで連鎖を形成する。会話分析において連鎖組織の分析とは、そうした連鎖の中で会話の当事者たちの発話を通じてどのような行為がなされているかを明らかにするものである。本章では、教員による指示や合図とそれに対する児童の反応によって構成される連鎖組織に焦点を当て、どのように構造化されているかを説明している。

第七章は修復の組織に関する章である。修復の組織の分析は、会話内で起こるトラブルに焦点を当て、その修復がどのように行われるかを描き出すことを目的とする。本章では、どのようなトラブルが観察されるのかということと、そうしたトラブルが会話の参加者たちによってどのように扱われるのかを分析している。

第八章では、分析結果を踏まえた考察をしている。最初に、第四章から第七章の分析結果を要約している。次に、第二言語教育と関連付けて考察した授業内会話の特徴についての利点や改善

点に基づき、教育的示唆を議論している。また本章は、本研究の限界と今後の研究の方向性についても述べている。

第九章は、本論文の結論として、本研究の分析と考察を要約している。論文全体の内容を総括した上で、第二言語習得研究の分野および会話分析を用いた研究分野における本研究の意義を論じている。

5 論文の特質

日本で小学校に英語教育が導入されてから10年になるが、小学校英語教育に関する研究はまだ限られている。その限られた研究の多くが、生徒の情意面や指導方法に関するものであり、比較的小規模な研究がほとんどであった。これらの研究は、第二言語習得や若年英語教育のごく断片的な面しか論じておらず、学びの根底となる実際の英語の授業の中で、どのようなコミュニケーションが生徒間、もしくは、教師と生徒の間において行われているかを調査した研究は今までなかった。本研究では、授業における会話の特質を分析し、どのように授業の会話が組織化されているかを明らかにしており、小学校における英語の授業の実態を明確にしている。この点において非常に貴重な研究であると言える。

また、本論文では、会話分析という手法を研究方法として使用している点も斬新である。会話分析は、学校というコンテキストの中における授業内会話を分析するのに使われてきたが、日本の小学校における英語授業において、会話分析を研究手法として使用した研究は今までほとんどないと言ってよい。また、会話分析という手法を使いつつ、理論的枠組みとして第二言語習得理論の社会文化的見解を取り入れ分析している点もこの論文の特質となっている。

6 論文の評価

本論文の研究手法とした会話分析では、全域的構造組織(structural organization)、順番交替(turn-taking organization)、連鎖組織(sequence organization)、修復の組織(repair organization)の観点から小学校の教室内会話を網羅的に分析している。その結果、すべての観点において教師主導型の授業であることが分かった。これは、単語や文法、もしくは表現をシラバスの予定通り教えるという点においては、授業の目的を達成することになるので、問題がない指導方法である。しかし、本来の目的である生徒のコミュニケーション能力を育てる生徒主導のインタラクションがある授業ではないことが判明した。

本研究では、4年にわたり、3つの小学校で行われた英語の授業を録音した膨大なデータを文字化し、会話分析を行っている。これほど膨大なデータに基づき日本の小学校の英語の授業におけるコミュニケーション活動を会話分析の手法を用いて調査した研究は、今までにほとんど発表されていない。また、日本の小学校における英語の授業がコミュニケーション能力を育成するという学習指導要領に記されている目的を十分に果たしていないことが明らかになったことの意義は大きい。また、第二言語習得の社会文化的見地から、授業改善の方策として、corrective feedbackの与え方に加え、順番交替や修復構造のあり方などを提案しており、今後の小学校英語教育の改善に大きく貢献できる論文であると評価した。

7 論文の判定

本学位請求論文は、国際日本学研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり、本学学位規程の手続きに従い、審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので、博士（国際日本学）の学位を授与するに値するものと判定する。

以 上